



自然観察

No.133
2021.3月

目次

- フィールドニュース 2
- 参加者の声 6
- 指導員スキルアップ研修 in 旭川 ～里に出るヒグマを現地調査から考える～ 7
- ヒグマを知ろう ヒグマ・ノートの紹介 8
- 総会議案書(案) 2020年度事業報告 10
2021年度事業計画(案) 11
- 新型コロナ感染症影響下における観察会の留意点 15
- 編集後記・連絡先 16



「狩りを行うオオワシ」 網走市

珍種・変種の草花観察も面白い！！

江別市 森 繁寿

多種多様な草花が咲き競う野幌森林公園に入ると、私はいつも道端の草花に目配せしながら歩いている。途中変わった草花に目が留まると先ず、その姿形や色合い又、果実数などをチェックすることになっている。と言うのは、その群落の中に珍種や変種が混じっているかもしれないからである。この数年間で観察してきた草花の珍種、変種を紹介しよう。

1. オオバナノエンレイソウ

通常の様子は、「葉数3枚・花弁3枚・オシベ6本・ガク片3枚」である。これに対し注目点は「花弁4枚・オシベ7本」と各1つ多い変種で、その姿形は通常の草花とは明らかな違いをみせていた。～写真1～

ところで、この件について専門家に伺ったところ「細胞分裂時に何らかの要因で遺伝的にキズが付き突然変異を誘発した可能性」があるのではないかとのことでした。



写真1 オオバナノエンレイソウ

2. ミドリニリンソウ

白色の花をつける可憐なニリンソウに対し、ガク片が緑色の品種をミドリニリンソウと呼んでいる。通常は「ガク片が5～7枚」であるのに対し注目点は「花弁8枚で濃い緑色の八重咲き」という珍品である。ちなみに、このタイプの変異幅は広いとのこと。～写真2～



写真2 ミドリニリンソウ

3. フッキソウ

草本状で常緑小低木に属するフッキソウは、先端に真珠の様な果実をつけることで知られているが、その「果実数」に注目しての観察である。通常先端には「2～4個程度」の果実をつけるが、しかし、まれに「5～6個」のケースもある。～写真3～こうした個体は、多産系に属する珍品といえるかもしれません。

以上、変り種の3点を観てきましたが、このほか野幌森林公園では希少価値がありそうな草花を2点紹介しましょう。

ア. 白い花弁の「エゾエンゴサク」～写真4～

エゾエンゴサクの花の色は、通常、桃色・淡い紫から濃い紫に至るまで実に様々であるが、その中で注目点は、白い花を咲かせるエゾエンゴサクである。もし、どこかで観察できればラッキーかもしれませんね。

イ. 花弁（無花弁含む）とガク片がある「クロミノヒダカエンレイソウ」～写真5～

「クロミノヒダカエンレイソウ」は、ガク片の中心に角張った暗紫色で卵形の果実が



写真3 フッキソウ

あること等から判断して「ヒダカエンレイソウ」の変種とみられる。



写真4 エゾエンゴサク



写真5 クロミヒダカエンレイソウ

ところで、野幌森林公園はこれから融雪が進み、いち早く福寿草が目覚めそしてミズバショウやエゾノリュウキンカ、ザゼンソウ等々多くの草花が森の華やかさを一層演出してくれる。皆さんも、色々な草花の中から変種珍種を探してみるのも、もう一つの草花観察の面白さ、楽しさかもしれません。

快適避難できたプングেনストウヒの根元と群集乱舞のカラスたち

札幌市 村元 健治

静かで快適なトウヒの中

今年の1月中旬に、私が住む札幌でも久しぶりの猛吹雪があった。朝起きた段階で20 cmほどの積雪があり、その後、断続的に積雪は続くだけでなく、風も強くなり本格的な吹雪の様相になってきた。

昼過ぎ、どうしても宅急便を出さなくてはならないことがあったので、近くにある取扱店に行った。近道をするため、公園の中を歩いて行ったが、既に30 cmほどの積雪で長靴を履いて雪を掻き分けながら進んだ。

用事を果たしての帰りも、再び公園を通ることにして歩いて行くと、猛吹雪は激しさを増してきた時、丁度、プングেনストウヒ(アメリカンハリモミ)の林に差し掛かった。

このような猛吹雪の時は、山の動物、鳥などはこれらプングেনストウヒのような針葉樹の林、森に避難をするということを聞いていた私は、丁度、このことを実際に試してみたい衝動に駆られて、急ぎよ、道路際の小さなトウヒの林に入って見ることにした。

道路から少し外れただけで積雪の深さは、一層、増し膝頭まできた。ズボズボと埋まりながら、トウヒの茂みに身を入れた。

中に入ると、トウヒの枝が地面まで垂れ下がっていて木の根元から来る風をシャットアウトしていた。そのような状態のトウヒが、周りをぐるっと囲んでいて、真ん中に1坪ほどの空間ができていた。根元から上の枝は、互いに触れるぐらいに茂っていて外からの風をシャットアウトするだけでなく、外部からも中を伺うことが出来ないような空間ができていた。積雪量も少なく、10 cmほど。

丁度、洞穴に入ったような感じで、私は嬉しくなって仰向けに寝て空を仰いでみた。し



かし枝が上の方まで混み合っていてかろうじて、僅かに見えるぐらいであった。外は時折、猛吹雪になったが、この中にいても、風は勿論、入り込まないだけでなく、雪も細かなものがパラパラ落ちてくるくらいなのだ。静かで、中々、快適なのだ。これなら何時間でも居られそうな感じがした。

山の動物とか、鳥たちが、この様な猛吹雪の時、避難をする格好な場所がこれら針葉樹だと聞いていたが、本当にそうだろうかと私も心から納得した。ただ同じ、針葉樹でも下枝が大地に付かんばかりに垂れ下がるプンゲストウヒの樹々が一番、避難場所として最適だと感じた。公園に植栽されているトウヒの中には、この下枝をバッサリと切ってしまうところもあるが、そうなった場合は、その効果は半減するのではないかと思われた。しかし、残念ながら、このトウヒは北海道の山には自生していない。

とにかく、妙に落ち着くだけでなく、快適すらを感じていたが、そのうちに寒さがこみ上げてきたので、ソロソロとトウヒの林から顔を出して抜け出ようとした。



ヨタヨタ歩く姿を見て群集乱舞するカラスども

すると思いがけずに、数羽のカラスが、吹雪にもかかわらず近くの木に止まっていて私を見ているのだ。これにはギョッとしたが、それにもめげず、せっかくのチャンス故、隣のもう一つのトウヒ林めがけて雪の中を歩きだした。

ところが深雪のため、思うように進めず、一步一步ずつ片足を上げ下げさせながら歩き始めたら、木々に止まっていたカラスどもが、私のそのヨタヨタした歩き方を見て急に騒ぎはじめるとともに、他のカラスどもも集まってきて、私がいる上空は、たちまちカラスたちが乱舞する異様な状態になった。

私はホウホウの態でトウヒの茂みに潜り込んだが、カラスどもは暫く上空で騒ぎまくっていた。

このカラスたちの状態を目の当たりにした私は、あることを思い出した。

それは森繁久彌出演の『地の果てに生きるもの』という映画の最後のシーンだった。漁師の番屋に住むオホーツク老人が、最後の力を振り絞りながら、ヨタヨタと海に向かって歩いて行くシーンがあったが、飢えたカラスどもが行倒れて死が間近に迫っていることを嗅ぎつけて、たくさん集まってきているというものだった。

猛吹雪の中を、膝ほど埋まる中を、ヨタヨタと林の中に入り込み、再び、そこから這い出て違う林に行く私の姿に、死期迫って野垂れ死する老人を嗅ぎ取って集まりはじめ、騒ぎ出したのであろうと思った。

私は、恐怖は感じなかったが(というのは、ピンピン元気だから)、とにかくこれらカラスを見て、すぐ映画のシーンが蘇えったが、改めてカラスの行動には、驚き入った。

二度目の休息の後の林から出るときも、最初と同じように深雪のためヨタヨタと歩いたので、カラスどもが再び、たくさん集まってきた。

ところが私が、雪が少ない散歩道に到達して、軽々と元気よく歩く姿を見たカラスども、一羽去り、二羽去りという調子で、間もなく一羽もいなくなってしまう。私が死に損ないの爺でなく、元気な爺だと判って、予想が外れたので去って行ったようだ。



以上、カラスの行動を含めて貴重な体験をすることができたが、改めて針葉樹の冬場の果たしている重要な役割を体得させてもらった次第である。

北大苫小牧研究林

苫小牧市 谷口 勇五郎

研究林は樽前山の1667・1739年噴火の火山灰(1~2m堆積)の上であり、面積は27km²で市の20分の1を占めています。その内人工林が25%、残りはミズナラ・イタヤ類などの落葉広葉樹からなる天然林です。樹木100種、草本230種以上生育しています。幌内川にはサケが遡上し、市の水道取水施設(市の4分の1)があります。山草園には林内の主な草本が植えられ、樹木園には道内・本州・外国産樹種が多数植栽されています。森林資料館には哺乳類や鳥類の剥製・木材標本・キノコ標本・木製品・多数の昆虫標本があります。4~10月の第4金曜日は一般公開しています。

協議会での観察会は1月ですので、取り扱うものは、冬芽を主とした広葉樹、針葉樹、動物の足跡、野鳥です。草花や樹木が多少わかる程度の、自分が始めた頃の数年間は、ストレスいっぱいでした。結局は1つ1つ、現物にあたりながら学ぶことでした。適当なよい本と知っている人から教えてもらうことが分かるためには何より早道と思います。広葉樹の樹種の同定には、花・葉・冬芽です。花は一時期で、しかも高い位置にある種が多いです。葉と冬芽を比べると、葉は大きく形がよく分かり、落葉もあり、手に取ることができます。冬芽は小さく、落枝はめったにありません。ヤマモミジとハウチワカエデの葉の違いはすぐ肉眼でわかります。ところが冬芽の両者の違いは分かり難いです。「落葉広葉樹図譜」冬の樹木学：四手井綱英・斎藤新一朗著 共立出版 1978年初版は古いけれどもスケッチで描かれ解説が付き、分かり易い本です。

研究林では採取禁止で、しかも大きい木ですと冬芽は高いところにあり、目前にないので、他所で採取したものを見せます。ハルニレの葉芽は小さいですが、少し大きい花芽も付いた小枝を持参します。ヤチダモ・ハンノキ・ホオノキ・ミズナラも持参します。葉痕も重要です。ホオノキの冬芽は分解して見せます。托葉や葉身が数枚ずつ入っています。ハンノキはコースに生えていませんが、小枝を見せ雌花穂・雄花穂・冬芽を示します。

動物の足跡はキツネ・シカ・リスがあります。前夜に数cmの積雪があれば有難いです。しばらく降雪がなければ足痕は変形し、難しくなります。「新版アニマルトラックハンドブック」今泉忠明著、自由国民社発行を利用しています。シカは前足の痕を後ろ足がほぼ正確に踏みます。キツネも同様です。



イヌではかなりずれます。シカの足跡や糞は雄・雌・子供で大きさが異なります。リスとウサギでは大きさが異なりますが、形はよく似ています。

針葉樹では北米原産のリギダマツが植えられています。大木になるのですが、葉が3本一束で幹や枝から直接出ます。キャラボクはイチイの変種で本州日本海や朝鮮に自生し、高さ1~2mで、幹は下からよく分枝し、地面を這います。樹木園の入り口にあるものはシカ除けの柵内にあり、外から透かして見ますが人の高さ程です。ところが森林資料館の側の、10m以上もある大きなイチイのすぐ脇にあるものはかなりの樹高があります。葉の付き方が、イチイは上を向いた枝ではらせん状に付くが、横に伸びた小枝では葉はねじれ、やや平行に並び、キャラボクでは枝にややらせん状に不規則に付き、平行に並びません。チョウセンゴヨウの葉は5本一束で本道には自生していませんが、各地で植栽されています。大木もあり10月頃には、エゾリスが握り拳より大きい球果を落とし、種子の1個ずつを地上に貯食している場面を見ました。その球果を見せます。



野鳥では年間を通すと、キバシリ・ミソサザイ・キクイタダキ・カワセミ・カケス・クマゲラ・ヤマゲラ・アカゲラ・コゲラ・アオサギ・ダイサギ・エナガ・カラ類・マガモなどが見られます。望遠を携えたカメラマンは平日でも4~5人は見かけます。



参加者の声



晩秋のウトナイ湖 2020/10/25

白老町 小野 正一郎

はじめに、私がこの観察会に参加したのは知人からの誘いで、新聞記事に載っていた観察会に参加してみないかと言う声がきっかけであった。ウトナイ湖はバードウォッチングや野鳥撮影で日頃から足を運んでいるフィールドで、冬はシマエナガや初夏にはキビタキ、マガン達のねぐら立ちなども早朝より観察しに来た事があった。野鳥メインのフィールドとして楽しんでいたが、今回の観察会では、ウトナイ湖周辺の樹木や植物に視点を置き、深められる観察会になったのではないかと感じた。キハダやカンバ類の名前だけは知っている樹木のあれこれや、今まで知らなかったケヤマウコギ、チョウセンゴミシの木の実などの話も聞く事ができ、野鳥に限らずウトナイでのフィールドワーク時の視点や興味の湧き方の幅が広がったのではないかと思います。

「ヒグマ研修に参加して」

札幌市 吉田 陽子

旭川市の環境保全課職員の方に、熊が目撃・痕跡が残された現場をご案内頂きました。観光客の姿もある就実の丘駐車場から車で数分走った小麦畑。麦がなぎ倒された部分は「熊の通った道」だと説明を受け、その道幅に衝撃を受けました。「こっちへ抜けたんでしょ」と職員の方が指した林は、気温28℃を越える畑に比べて明らかに涼しく、下草も育たぬ程日が射さない暗い林の奥で、熊がジッと私達を見ているような気がしました。

学習能力の高い熊は良い餌場は記憶しリピーターになるとのこと。市職員の方はそれを「熊がつく」と表現されました。設置された箱ワナも離れた場所から双眼鏡で観察しました。箱ワナにかかった熊はもがくうちに体中に受傷し、とても山へ放せるものではないと事前講義で山本さんから伺いました。昨年、畑についてしまい、箱ワナで捕獲し駆除せざるを得なかった熊の場合は、逃れようとして牙が丸く磨耗するほど鉄柵を噛み続け、爪は折れてなくなり、口や鼻から出血もして大変可哀想な状態だったと市職員の方は話されました。

人を恐れず、農作物に依存する熊が増えたのは、山と都市部との緩衝帯の役割を果たしていた農村が過疎で衰退した事など複数の要因が考えられるそうですが、熊の生息地にゴミを放置する等、人間の安易な行動も大きな一因です。ゴミをあさったり、畑についてしまう熊を作らないことが一番肝要と学びました。

個人のレベルで出来ること、自治体や様々な組織の連携が必要なことがあると思います。今回の研修では、実際に熊は見ませんでした。畑にへこんだ足跡、鹿の毛が混じった糞、そして例の小麦畑の一本道を見て想像が膨らみまして、そこに生きている熊の気配がより濃厚に感じられました。

また、熊の生態や農家の仕事・生活の理解に努め、自然環境の研究・保全に関わる方や猟友会とも良好な関係を築きながら活動されておられることが伺われる市職員の方の仕事ぶりも初めて拝見し、やはり何事もコミュニケーションが大事だなと改めて学ばせて頂きました。準備下さいました山本さんはじめ、旭川の指導員の皆さん、ありがとうございました。

指導員スキルアップ研修 in 旭川

～里に出るヒグマを現地調査から考える～

旭川市 山本 牧

7月18日、旭川市西神楽でヒグマが毎年複数頭現れ、スイートコーンやビートを荒らしている現場で、農業被害の現状や対策、ヒグマが人里に出てくる理由などを考えるスキルアップ研修を行いました。参加は約10人。

研修地は旭川空港に近い「就実（しゅうじつ）の丘」。美瑛町に隣接し、緩やかな丘に農地が広がる観光地です。夏場にスイートコーンやビートがヒグマに荒らされるようになり、多い年は6頭前後が現れます。被害が増えたのはここ数年で、年々ヒグマの行動は大胆になっています。

旭川市環境部は自動撮影カメラを設置し、被害の多い場所には箱ワナも仕掛けていますが、食害はなかなか減りません。丘の農家はすべて離農し、夜は人がいません。スイートコーンの作付けが増え、甘い作物を目当てに大雪山麓からはるばるヒグマが集まるらしいのです。

麦畑には一筋の踏み跡が続いていました。案内をしていただいた環境部の橋口城児さんは、「ヒグマの踏み跡は幅が広いので、シカと区別できます」と説明。見通しのいい畑のあちこちに「ヒグマ道」ができ、畝には大型のヒグマの足跡がくっきりと残っていました。

「トウキビには早いので、クマもまだ様子見。今はフキやアリなどを食べています」と橋口さん。丘の農地は防風林に仕切られ、沢もあって、ヒグマが隠れるには好都合です。農道の真ん中であつた糞にはエゾシカの毛が混じっていました。

ヒグマはナワバリを持たない動物なので、こうした条件のいい場所には遠くから集まって交互に畑荒らしをします。「箱ワナで駆除しても別のクマが現れる。根本的な対策をし

たいのですが」と橋口さん言います。丘の農地を電気柵で囲えばかなり防げるはずですが、地域全体の防御は実現していません。ヒグマは畑荒らしだけではなく、観光客や通学児童ともニアミスをしているはずなのですが。

道内外の人里でクマの出現が続きます。背景には個体数の増加だけではなく、過疎が進む農村で、ヒグマが人を怖れなくなっている現状があります。駆除だけに頼らず、人間とクマの距離感を取り直す、社会全体の取組が必要と感じました。

「ヒグマを知ろう ヒグマ・ノート」の紹介

編集部

「ヒグマ・ノート」

A5サイズ、31ページの昔の大学ノートを思わせる表紙に、うずくまったヒグマが小さな目でこちらを見つめる、そんな姿が大きく描かれています。やさしそうな顔ですが、このヒグマが何を思っているのか、ついついじっと見入って色々と考えてしまいます。「ヒグマの会」が2020年3月に出版した小冊子「ヒグマを知ろう ヒグマ・ノート」です。「ヒグマについての正しい知識を持つ」ため、ほのぼのとしたイラストや写真をふんだんに用い、小学生でも理解できる内容になっています。



「ヒグマ・ノート」表紙

ヒグマが街にやってくる

北海道では以前から、特に、山菜採りの時期になるとヒグマとの遭遇事故の報道は毎年恒例になっています。しかし、この数年、札幌では国営すずらん丘陵公園や、野幌森林公園にヒグマが入り込み、一般の利用ができなくなったり、南区や西区の住宅地にヒグマが出没するという事態が起こるようになってきました。190万人が暮らす大都市札幌の周辺部でおこる野生との遭遇。自然を切り開き宅地化し、ヒトの生活圏を広げてきたので、もともとの住人であるヒグマの生息域に接近し過ぎたのでしょうか？いや、どうも最近はそのようではなさそうです。北海道民として、ヒグマとのつきあい方は誰もが知っておかなければならない必須事項なのではないかと、最近、強く思うようになりました。ヒトの方が対応を間違えると大惨事に至ると専門家は警告します。

どうしてヒグマが街へ？

「ヒグマ・ノート」から、なぜ、ヒグマ達が人里近くにいるようになったか探ってみましょう。

札幌市とその周辺では、ヒグマの数は増えてきているそうです。街に出てくるのは好奇心が強く、警戒心の薄い若いクマが多いとか。雄グマは用心深く奥地にいるので、親子グマは雄を避けて、若いクマはライバルのいない人里近くの森に住むことになりました。一方で、30年前に春グマ駆除がなくなり、人を怖がらないクマが増えました。森の食物が少なくなる夏の終わりころ、人間の畑や果樹園で実った作物を求めて、ヒグマがやってくるようになったのです。「人間のところでおいしいものが簡単に食べられる」ことを多くのクマが知ってしまったのです。

「絶滅」から「共存へ」。ヒグマに対する大きな方針変更があったために、ヒグマは増えているのです。しかも、人間を怖がらない、人間の弱みについて攻めてくる手強いヒグマなのです。私たち道民は、ヒグマをまさに隣人として迎え入れなければならない、そんな状況になっていることを認識し、真剣にヒグマを人里に寄せつけない対策（草刈り、野菜クズや生ゴミを捨てない等）を講じることが求められています。

「ヒグマ・ノート」には、ヒグマの形態学的特徴、暮らし方や食べもの、行動範囲などの生態について、事故や身を守る方法、数や分布などが、コンパクトにまとめてあり、ヒグマについて短時間に一通り学ぶことができます。自然観察会を開催するために、自然の中に入る機会が多い当会会員の皆様にも、お勧めの一冊と言えるでしょう。

「ヒグマの会」について

「ヒグマの会」は、1979年、ヒグマに関心を持つ研究者、狩猟者、農家やジャーナリスト、一般市民らが集まって発足。北海道のヒグマと自然環境を知り、人間社会との共存を目指すことを目的に活動を続けています。2019年から2020年は、設立40周年を記念し、「北海道のシンボル・ヒグマへ共存への道のり〜」をテーマに様々な普及イベントや出版を企画・実施。ヒグマの生態や安全対策についての小冊子「ヒグマ・ノート」も制作されました。旭川在住の当会山本牧理事は副会長をされております。会員は170名。1981年から毎年、発表会・シンポジウムを開催し、お互いの研究成果を報告・発信する活動もされています。

情報満載の「ヒグマの会」ホームページ

「ヒグマの会」ホームページには、作成中の部分もありますが、「ヒグマ情報館」「ヒグマ調査室」「被害を防ごう」「ヒグマ写真館」「ヒグマの会とは」のサイトメニューがあり、たくさんの情報が収められています。「ヒグマ調査室」の「事件を読み解く」に取り上げられている「日高山系・福岡大ワングル事故の検証」は、1970年におきた若者3名が犠牲になった事故について、時間経過をおった事実の詳細な記録と、どうすれば回避できたかを考察しており、ヒグマの習性と怖さ、ヒトがとるべき対処法を教えてください。会員が現場から得て発信する生きた詳細な情報に重さを感じます。是非、立ち寄って読むことをお勧めします。

果たして現代北海道人はヒグマと共存できるのか？

北海道の生態系の頂点に立つヒグマ。巨体を維持するためには、豊かな自然が存在しなければなりません。今、再生可能エネルギー推進が大きく叫ばれており、北海道内各地、例えば、えりも町、せたな町、小樽市毛無山の尾根等に巨大風力発電施設の建設計画が進行中で、これらの計画予定地はヒグマの生息域になっています。道北では数百基の建設が順次開始されました。

「ヒグマ・ノート」の裏表紙には、去っていくヒグマの後姿が描かれています。風車からは遠くまで届く低周波音・超低周波音が発生します。本州では、野鳥の生息数が減少し、飼い犬や猫に異常行動がおき、野生のイノシシが凶暴化した例があります。ヒグマへの影響も否定できません。彼は風車からの低周波音等に追われて逃亡中なのは？「共存」なんて幻想では？国や風車事業者は、北海道を単なる「エネルギー植民地」としか捉えていないのではないのでしょうか。そして北海道の自治体や経済界も、北海道の経済発展のために（？）、生活環境・自然環境へのデメリットを正しく理解することなく、国策の御旗のもと導入・推進する動きになっていることに危機感を覚えます。道民も再エネは善だと洗脳されています。ヒグマの生息域は減少していき、人里近くに追われたヒグマは処分され、絶滅危惧種への道を歩むのではないのでしょうか。単なる杞憂に終わることを祈るばかりです。（安田秀子）



「ヒグマ・ノート」裏表紙

ヒグマ・ノート 絶賛販売中！

1冊300円で販売。ご希望の方はヒグマの会事務局発送担当 (higmax7@gmail.com) まで、送付先住所、氏名、希望冊数を連絡。

※本稿執筆に当たり、専門家の立場から貴重なコメントをいただいた山本牧理事に感謝申し上げます。

2021年度総会のお知らせ

日時	2021年4月3日(土) 13:00~14:30(受付 12:30~)
場所	札幌エルプラザ2階 環境研修室1・2 (札幌市北区北8条西3丁目)
議事	(1) 1号議案(2020年度事業報告) (2) 2号議案(2020年度会計決算報告・監査報告) (3) 3号議案(2021年度事業計画案、その他)
その他	新型コロナ禍につき講演会、懇親会は予定していません。

総会議案書（案）

事務局

2020 年度事業報告

1 観察部所管事項

(1) 観察会について

2020 年度の一般観察会は、親子夏休み自然観察会を除き、38 開催が予定され、16 開催の中止を除き現在（2/6）まで 20 開催が無事終了した。このうち報告書未着および報告書不備の 1 開催を除く 19 開催について集計、概要は下記の通り。

一般参加者数延べ 296 人、指導員参加者数延べ 78 人。一般参加者の年代別では、年代記載者 239 人中、80 代以上 16 人、70 代以上 115 人、60 代が 65 人、50 代 17 人、40 代以下 26 人となっている。最終結果は 6 月発行予定の会報に掲載する。なお、各観察会の実施状況は会報・ホームページに掲載中である。

指導員のための観察会は、みどりの日に行われた「道庁・北大植物園観察会」の下見を活用して「自然観察会予定表 2020」の中で呼びかけたが、コロナ感染症の拡大のため、観察会自体が中止となった。

(2) 会計について

例年通り良好に観察会参加費は入金されている。詳細は事務局会計報告を参照のこと。

(3) 傷害保険について

今年度観察会において、事故及び怪我の報告はなく、保険の適用は無かった。

2 研修部所管事項

(1) 全道研修会について(会報 No.132 に実施報告を掲載済み)

日時 6月27日(土)～6月28日(日)

場所 標津郡標津町ポー川史跡自然公園(展示施設・標津湿原)・野付郡別海町野付半島原生花園・野付郡別海町立郷土資料館・加賀家文書館

参加人数 12名

(2) 地方ブロック研修会について（道央2ブロック担当、予定：9月12日）

ウポポイの研修受け入れ体制の遅れやコロナ禍で研修人数に制限がかけられたため、研修会の目的が十分に果たされないと判断し中止とした。

(3) フォローアップ研修会について（会報 No.132 に実施報告を掲載済み）

日時 10月3日(土)

場所 北海道大学構内・セイコーマート 2F

参加人数 11名

※スキルアップ研修として「里に出るひぐま～現地調査しながら背景を考える」旭川にて7月18日(土)に開催し、10名の参加があった。

3 編集部所管事項

(1) 会報発行について

2020 年度発行の会報「自然観察」は、131 号（6/15）、132 号（10/15）、133 号（3/15）計 3 回。また、全国 21 か所の自然観察指導員連絡会及び関係団体へ会報を送付し、交流を行っている。編集部は会報発行毎に 1 回開催し、計 3 回行った。

尚、今年度はコロナ禍による観察会の中止が相次ぎ、原稿の集まりに支障がでたため、内容を縮小して発行することとなった。

(2) ホームページ（HP）の運営について

HP のアドレスは <http://www.noc-hokkaido.org/>

担当が田守理事となり、適時更新されている。

4 実行委員会事項

- (1)夏休み親子自然観察会 (会報 No.132 に実施内容を掲載済み)
- 日 時 8月2日(日) 10:00~12:00
- 場 所 札幌市北方自然教育園
- 内 容 森と水辺の自然観察と生き物採集・スケッチ
- 参加者 9家族27人(子ども16人、大人11人)*指導員6人

5 事務局所管事項

(1)事務局長

①各種会議等の円滑な運営

i 理事会について

6月紙面(コロナ禍のため)、8/29(土)、10/24(土)、12月紙面(コロナ禍のため)、2/6(土)、4/3(土、予定)、紙面により理事会2回を含め6回開催。

理事会の前には会長、副会長、事務局の4名で事前の打ち合わせ(三役会議)を行い、理事会の円滑な運営に努めた。

ii 総会について (会報 No.131 に報告を掲載済み)

iii 講演会について

山本牧氏(NPO法人もりねっと北海道代表/本協議会理事)に講演を依頼し快諾を受けていたが、コロナ禍の状況から4月実施は無理と判断し延期とした。その後も感染状況が収束を見ず残念ながら中止とした。

②入退会者の受付と会員名簿の整理

退会者が目立った。退会の理由は高齢や病気といった内容が殆どだった。2021年2月6日現在で会員数208名。

③他団体との連携・協力について

i 高山植物ネットワーク コロナ禍のため中止

環境道民会議 コロナ禍のため中止(紙面による意見募集)

ii 講師派遣依頼 札幌レクリエーション協会主催のシニア向け観察会の講師依頼

6月6日(土)札幌市西区宮ヶ丘公園(安田指導員対応)

(2)総務

①懇親会はコロナ禍のため中止とした。

②編集部への依頼により会報の宛名ラベルの作成に協力した。

(3)広報

①「観察会の予定表」の配架と情報提供

・配架場所 各地区の自然センターなどに設置。また、観察会で参加者に配布した。

・情報提供 自然ウォッチングセンターのホームページへ掲載された。(観察部)

(4)会計 2号議案にて報告 別紙で報告

3年間未納者の取り扱い報告について 該当者は12名

一部の会員へ家族会員の振込用紙を同封してしまい、大変迷惑をかけた。それぞれに連絡をとって理解していただき適切に会計処理を行った。今後は確認をしっかりとやっていきたい。

2021 年度事業計画(案)

1 観察部所管事項

(1)観察会について

今年度の観察会実施計画は別表の「2021年度自然観察会の予定表」の通りであり、「夏休み親子自然観察会」を除き33開催(2/6)が予定されている。今回掲載以外にも企画があれば、できる

限りバックアップするので観察部（山形）へ連絡をお願いします。各観察会連絡担当者の方は、一般参加者名簿、指導員用名簿及び観察会予定表など、必要枚数を観察部山形までご連絡のこと。尚、各観察会で行う下見は、会員同士の交流と研修の場ともなるので有効に活用していただきたい。

※コロナ禍における観察会実施の留意点については次の通りとするので参考にして頂きたい。

新型コロナウイルス感染症影響下における観察会の留意点	
中止要件	<ul style="list-style-type: none"> ・国及び道による緊急事態宣言発令下 ・当該地域における外出自粛要請の発令下 ・当該地域に況下において感染が拡大している状況下
開催時の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受付方法の工夫（必要に応じて消毒液等の用意） ・名簿記載 正確な住所と連絡先（電話番号） ・参加者へのマスク着用をお願い ・社会的距離の確保をお願い
指導員	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、移動、解説時の社会的距離の確保 ・名簿記載確認とコロナ禍のための対応による説明 ・解説時の工夫(狭い場所は避ける/同じ物をみんなで触らない/マスクを外さない(etc)) ・申込制にして参加人数を制限する ・予め複数の指導員で開催を企画する ・下見会を実施し、参加人数の多い場合はグループ分けする ・中止の決定は観察部へ連絡する

(2)実施報告・会計について

①観察会の報告書は観察部（山形）へ送付のこと。また、観察会の活動写真を数枚程度必ず送るようお願いします。写真に参加者が含まれる場合は事前に承認を得るようにお願いします。寄せられた報告書・写真は会報またはホームページに掲載されることがあるので了承されたい。併せて、会主催の総会、道庁・植物園観察会、各研修会の報告と写真の提出も宜しく願います。

②保険料などを現金で振り込む場合は観察部会計（小川）へ直接送付のこと。ゆうちょの振替口座への振り込みを利用する方は、会計（小川）へ申し出でること。印字済みの振込用紙（振込取扱票）をお渡しする。

※ゆうちょ振替口座番号：2770-9-34461 加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

参加者名簿と一人当たり 50 円の保険料を協議会へ送付のこと。但し、1泊2日以降は該当しない。

(3)傷害保険について

観察会参加者の名簿が基本的となる。名簿の記入後から保険の対象となり、帰宅まで（帰宅経路を大幅に外れない範囲で）有効である。また、指導員の車に乗せて、観察場所を廻る場合でも集合時に名簿の記載があり観察会の参加者であることが分かれば保険の対象となる。

事故が起きた場合は、速やかに適切な処理を行った後に、下記の保険代理店の担当者に連絡し、事務局へ連絡をお願いします。

(4)観察会の参加費について

保険会社代理店：ケイティエス 本間 茂 電話011-873-2655 日曜、祝日休業
普通傷害保険（エース損害保険株式会社）死亡保険：600万円、入院保険金額：5,000円（180日以内）日額通院保険金額：2,500円（90日以内）

一昨年の総会にて決定し、一般参加費は200円が基本となってから1年が経過した。特に問題は無いと聞いている。観察会ごとに取り組み内容が異なることから、今後も引き続き各観察会ごとで適正な金額を設定することとする。従って、200円を上回る場合や従前通り100円での実施も可能である。

2 研修部所管事項

(1)全道研修会（研修部が企画し現地の指導員と連携しながら運営する研修会）

- ①2021 年度以降全道 5 ブロック順に隔年実施とする。
- ②二ヶ年度分の協議会研修助成金を積立充当する。
- ③ブロック順
2021 年度：2022 年度に向けた準備
2022 年度：道南ブロック(候補～函館方面・他)
2023 年度：2024 年度に向けた準備
2024 年度：道北ブロック(候補～天売島・カハツ湿原方面)
2025 年度：2026 年度に向けた準備
2026 年度：道央 1 ブロック(候補～石狩・空知方面)

(2)地方ブロック研修会（担当の地方ブロックが研修部と連携し主体的に企画運営する研修会）

①2021 年度

担 当 道央 2 ブロック（後志・胆振・日高）

日 時 9 月 11 日（土）

場 所 午前中：国立アイヌ民族博物館「ウポポイ」見学（白老郡白老町若草町 2 丁目 3）
午 後：ポロト湖自然休養林観察会

内 容 「ポロト湖周辺に広がる豊かな自然に触れ、アイヌ文化を感じ・考える観察会」

その他 必要時、コロナ禍対応等で、ポロト湖観察会のみ行う場合がある(判断：8 月 6 日)。

②2022 年度以降

輪番によるブロック研修会は従来の内容・体制を生かし、全道研修会に統合して隔年実施とする。

但し、スキルアップ研修会など地方開催研修会は従来通りとする。

(3)フォローアップ研修会（研修部が企画し指導員の力量向上を図る実践的研修会）

隔年実施とし、2021 年度の実施予定はない。

開催テーマ・内容について、理事向けアンケートを行い、4～5 ヶ年計画を策定する。

3 編集部所管事項

(1)会報発行について

会報「自然観察」は 134 号 (6/15)、135 号 (10/15)、136 号 (3/15)、年 3 回発行予定。
事務局ほか各部などの原稿の最終締め切りは発行日の 45 日前とする。

(2)ホームページの運営について

依頼された内容は速やかにアップし、会員へホットな情報を届けるように心がける。

4 実行委員会事項

(1)NACS-J 自然観察指導員講習会北海道 2021 の実施

現下のコロナ禍の状況から、実施についての相談は NACS-J と ZOOM による会議を行うなど、連携を取りながら進めた。今後、実行委員会を組織して運営する。

日 時 第 1 日目 6 月 27 日（日）オンラインによる講習会 東京と参加者を Zoom で結ぶ

第 2 日目 7 月 4 日（日）野外実習 北海道青少年会館コンパス（南区真駒内柏丘）

(2)夏休み親子自然観察会

日 時 8 月 1 日（日）

場 所 札幌市北方自然教育園

内 容 森と水辺フィールドにおける自然観察と生き物採集とスケッチ等

5 事務局所管事項

(1)事務局長

①各種会議等の円滑な運営

i 理事会について

- ・6/5(土)、8/28(土)、10/16(土)、12/11(土)、2/5(土)、4/2(土)の年6回開催予定。
- ・理事会前の三役の打ち合わせ会議を遅滞なく行う。

ii 総会について (省略)

iii 講演会について コロナ禍が続いている現状から、3密を回避できないと判断し中止とする。

②入退会者の受付と会員名簿の整理は会計と連携をしつつ進める。

③他団体との連携・協力について (昨年に引き続き、連携を図る)

- ・北海道/環境財団(北海道地球温暖化防止活動推進センター)
- ・北海道/環境道民会議(北海道環境生活部環境政策課環境企画グループ)
- ・札幌市/環境局(北海道環境生活部環境局)
- ・高山植物保護ネットワーク(さっぽろ自然調査館内)
- ・全国の自然観察指導員連絡会・関係団体への会報送付

④40周年記念事業(2025)の方向性について

記念事業については実施する方向とする。但し、規模や内容については、意見が様々あるので次年度以降に詰めていくことにする。予算立てが必要となるため、次年度から積み立てを開始することとする。積立金額については今後、会の収支決算の状況も考慮しながら会計とも相談し進める。

⑤会員名簿の作成の手順について

- ・名簿作成にかかわる個人情報掲載の確認の文書を通知する。
- ・その際、通知漏れが無いように会報への掲載と文書同封など複数回通知する。
- ・名簿への掲載を希望しない場合や住所等の変更事項があれば、その内容を担当者へ連絡するよう周知する。
- ・以前に名簿掲載意思確認の返信用の葉書を同封したことがあるが、戻って来ない例が多数出て、意思確認としては不相当であったことから、返信用の葉書などの対応は不要としたい。
- ・事務局が取りまとめ作成を行い、編集部が印刷発注する。

(2)総務・広報

①懇親会 総会終了後(今回は中止)、年末の理事会終了後を予定する。

②観察会予定表の設置や自然ウォッチングセンターの掲載などは担当者と連携して活動を進める。

③道民カレッジの連携講座の窓口(今年度から事務局総務へ位置付けることにする)

道民カレッジ連携講座・開設の流れ (希望する観察会担当者)

1 所定の申請書に記入し道民カレッジに提出(観察会の担当者) オンライン可

2 道民カレッジから単位数の報告などのメールが事務局へ来るので各担当者へ転送する。

3 観察会の実施

- ・観察会の始めに道民カレッジでの参加者の確認し、終了時に手帳にハンコを押す。
- ・ハンコは道民カレッジの承認印で、協議会に3個ある。観察会が終わったら事務局総務へ返還する。
- ・尚、遠距離などでハンコの受け渡しが難しい場合は、代わりにシールがある。道民カレッジ事務局へ要望すればデータが送られてくるので、「日付・講座名・単位数」を入力し、シール台紙に印刷の上、使用する。

4 観察会終了後

所定の実施報告書を道民カレッジ事務局へ提出(観察会の担当者) オンライン可

※道民カレッジでは申し込みは随時行っていてホームページに掲載されるが、講座一覧の冊子に掲載されるためには期日に間に合うように申し込むとよい。

例 申込期日(前期4~9月分) 2月上旬必着(期日はHPなどで確認のこと)

※道民カレッジに団体として登録しているIDとPW(パスワード)は以下の通り。

北海道自然観察協議会 ID: Af(1MhT% PW: sizenkyo19%

(4)個人情報について

本協議会では、個人情報保護法の対象団体ではないが、保護法の趣旨に基づき、入手した個人情報、観察活動の目的以外には利用しない。また、保有する個人データは適正に取扱い、第三者に提供することはない。会員各位は、個人情報の取り扱いには留意し、特に会員名簿は外部に流失しないように願います。

(5)講師派遣依頼について

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていく。

(6)分野別ガイド・備品

①得意分野で、会員からの疑問や地域情報の問い合わせに対応していただける方々。また、分野別ガイドとしてご協力いただける方は、事務局へ連絡をお願いします。

分野	名前	電話	住所
水生昆虫、魚類	札幌市さけ科学館	011-582-7555	〒005-0017 札幌市南区真駒内公園 2-1
昆虫（甲虫）	堀 繁久	011-571-2146	〒005-0832 札幌市南区北の沢 2 丁目 20-18
植物全般	与那覇モトコ	0133-74-7952	〒061-3211 石狩市花川北 1 条 2 丁目 148

②備品の管理状況

備品	数量	保管先
実体顕微鏡ニコンフアーブルミニ	2 台	横山武彦（江別市）☎011-387-4960
追い込網	2 本	同上
大型旗(120×180)	1 枚	山形誠一（札幌市）☎011-551-5481
ポール（折りたたみ式）	3 本	同上
トリプルバグビューアー	3 台	同上
シュレッダー	1 台	佐藤修（札幌市）☎011-272-3038
小旗	3 セット	鈴木ユカリ（札幌市）

(7)会計 第 4 号議案にて提案 別紙にて提案

6 その他事項

(1)現在のところなし

『新型コロナ感染症影響下における観察会の留意点』

北海道自然観察指導員協議会

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止の相次いだ今年度（2020）の観察会でしたが、年が明けて 2021 年も、年頭から首都圏を始めとして各地で緊急事態宣言が発出、北海道においても飲食店の時短営業や外出自粛、往来の自粛が続くなど、感染の収まる兆しが見えてきていません。

そんな状況の中、次年度（2021）観察会企画募集に応じて、「2021 年度観察会の予定指導員用」（会報同封）のように、ほぼ例年並みの観察会企画が集まりました。

先の見えない状況の中、企画を寄せていただいた指導員の皆さんにおいては、すでに各自観察会における注意事項等、十分にお考えのことと思いますが、協議会として留意点をいくつかお知らせしたいと思います。

観察会開催においては、参加者へのマスクの着用のお願いや、必要に応じての消毒液の用意、社会的距離の確保などの基本的な対策のほか、特に名簿の記載に関しては、万一観察会後に感染が発生した場合、濃厚接触者と認定される場合もあるため、正確な住所と連絡先を、必ず記載していた

だくよう参加者の皆さんへの説明をお願いします。

また観察会開催中においても、集合・移動・解説時の社会的距離の確保、参加者の多くなりそうな観察会においてはグループ分けをするなど、密を避ける対応をお願いします。

観察会の中止に関しては、

- ・国及び道による緊急事態宣言の発出下
- ・(観察会開催) 当該地域における外出自粛要請の発令下
- ・当該地域において感染状況が拡大している状況下

等はもちろんのこと、企画側指導員の体調不良、直近に発熱のあった際も中止の判断をしていただくようお願いいたします。

中止の場合は、観察部 山形 まで連絡をお願いします。

中止の告知は当会ホームページ上、およびウオッチングガイドウェブ版にも間に合えば掲載されますが、当会予定表印刷版、ウオッチングガイド印刷版へは反映されないため、観察会当日は必ずどなたかが集合場所へ行き、知らずに来られた方への対応に当たってください。

要・不要、急・不急の線引き、無症状感染者の存在など新型コロナウイルス感染症には感染対策以外にも難しい問題もありますが、明るい話題として、2月下旬からは、先ずは医療関係者からではありますが、ワクチン接種が始まるようです。

年度が変わる4月には、新型コロナウイルス感染症にも収束の兆しが見えていることを期待しましょう。

(編集後記)

会報編集に従事して3回目となりますが、相変わらず慣れないWord編集に四苦八苦しています。しかしながら、編集の参考として過去の会報を読んでいると、自然に関する様々な発見や気づき、学びがあり、各地で行われている観察活動の持続と共有の大切さを感じます。作業効率を高めるため、インターネット上のテキスト比較ツールやクラウド利用による原稿確認を試していますが、作業効率が徐々にアップしてきました。時機を見て、各地で行われる活動において撮影等のお手伝いをさせて頂ければ幸いです。

コロナ禍で活動の制限や見直し等が求められる昨今ですが、活動記録の蓄積・共有、更にはホームページとの連携を通じて会員サービスの充実に貢献できれば嬉しく思います。(田守真一)

(連絡先)

観察会保険料	郵便振替口座 02770-9-34461
観察会担当会計	小川 祐美 〒047-0155 小樽市望洋台 3-13-5 Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp
観察会報告書・資料	観察部 山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山 1丁目 12-14 Tel/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
退会・住所変更連絡	事務局 佐藤 修 〒060-0004 札幌市中央区北 4 条西 13 丁目 1-47-303 Tel/Fax 011-272-3038 E-mail zd844422@xf6.so-net.ne.jp
投稿・原稿	編集部 村元 健治 〒006-0852 札幌市手稲区星置 2-8-7-30 Tel/Fax 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp
事故発生等緊急時	ケイティエス 担当 本間 茂 Tel 011-873-2655
表紙写真	山口紘司



自然観察 2021年3月15日/第133号 年3回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)
発行 北海道自然観察協議会
編集 北海道自然観察協議会編集部